

# 環境レポート

2022



共和レザー株式会社

## 目次

トップメッセージ	3
サステナビリティ	4
環境マネジメント	5
・管理体制、ISO、環境方針	5
カーボンニュートラル	6
・CO <sub>2</sub> 目録と実績	6
・①再エネ	7
・②設備投資・技術革新	8
・③日常改善・省エネ	9
・CDP 評価	10
・非財務情報の開示	11
資源循環	13
・廃棄物量	13
・樹脂のリサイクル	13
化学物質	14
・PRTR 対象物質	14
環境対応製品	15
・リサイクル PET 使用製品	15
・バイオ材料配合製品	15
・昇温抑制機能	15
・エシカルレザー Sobagni	16
・静岡茶から作った Chakara	17
社会貢献	18
・地域の清掃活動	18
・磐田市 災害復旧への協力	19
・家庭の不用品を海外へ寄付	19
・地元小学校ワークショップ	20

## 編集方針

環境関連の取り組みについて、広く社会へ発信することを目的としています。

※把握可能な情報からの推測が含まれ、実際の成果や業績と異なる可能性があります。あらかじめご了承ください。

### 【対象期間】

2022 年度(2022 年 4 月～2023 年 3 月)  
※一部、該当期間前後の内容も含まれます

### 【対象範囲】

共和レザー株式会社について報告します。  
※一部、連結子会社の内容も含まれます

### 【参照ガイドライン】

環境省「環境報告ガイドライン」

### 【発行時期】

2024 年 3 月（毎年発行）

### 【お問い合わせ先】

共和レザー株式会社

<https://www.kyowale.co.jp/>

※お問い合わせフォームをご利用ください

共和レザー株式会社  
取締役社長執行役員

花井幹雄



## みんなの知恵で 未来に渡そう きれいな地球

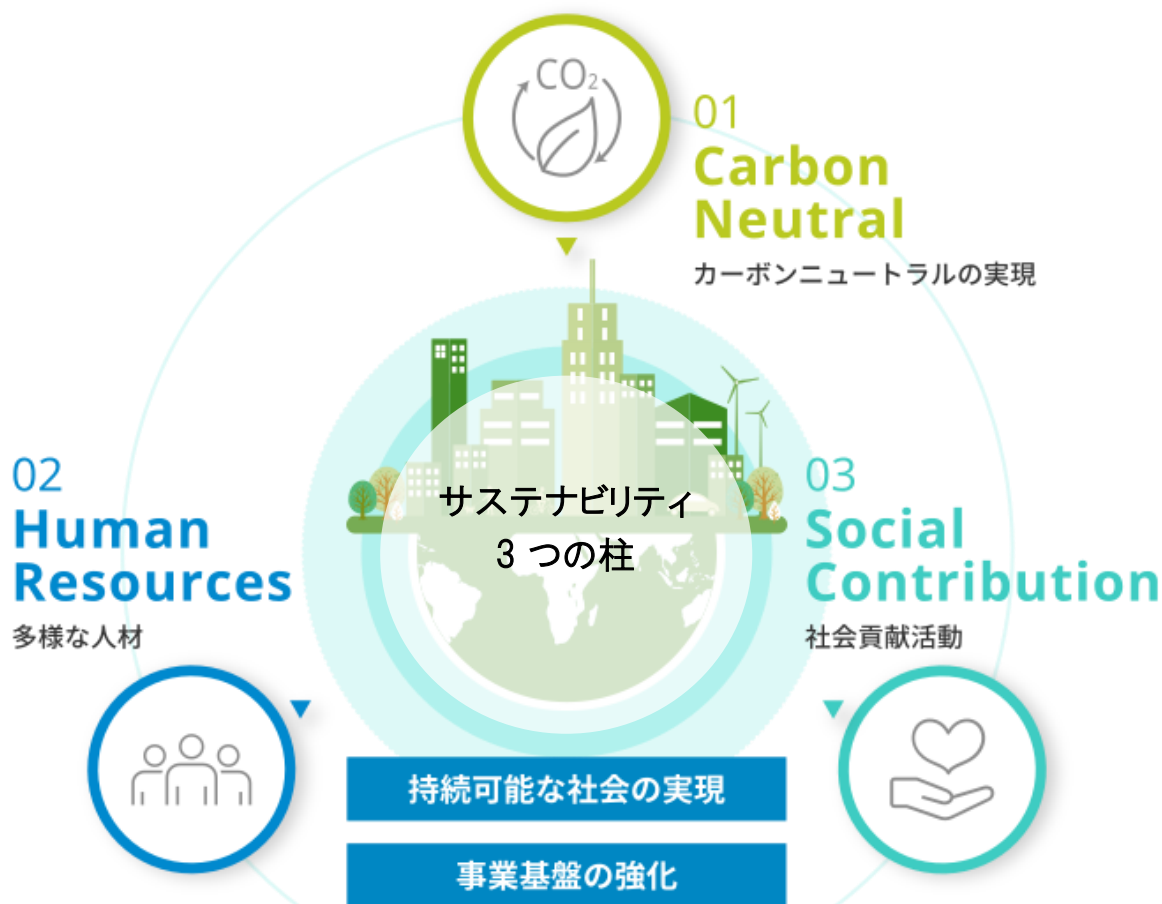
共和レザーは、1935年の創立以来、自動車、住宅設備、家具や鞆・靴などの表皮材メーカーとして、培ってきた「製品性能」や「デザイン性」により、自動車や住宅内装などの日々の暮らしの様々なシーンで「豊かさ」や「安心」を感じていただけるよう努めてまいりました。










近年では地球温暖化による気候変動が大きな課題となっており、「環境価値」のニーズが高まっています。環境スローガンとして「みんなの知恵で未来に渡そうきれいな地球」を掲げて活動しています。表皮材の提供によって車内や室内の「豊かさ」や「安心」を提供するだけでなく、「地球環境」全体に対しても価値のあるモノづくりをして、未来の持続可能な社会を実現することに向けて取り組んでいます。

環境問題の中でも気候変動問題については、2050年カーボンニュートラルを目標として活動しています。また、脱炭素だけに限らず、環境に優しい商品開発や環境負荷を与えない工法の確立により資源循環型（サーキュラーエコノミー）の企業を目指しています。環境関連の情報開示についても進めており、本年度から「環境レポート」の作成と公開を初めました。今後、活動を推し進めて、レポートの内容も拡充してまいります。

# サステナビリティ

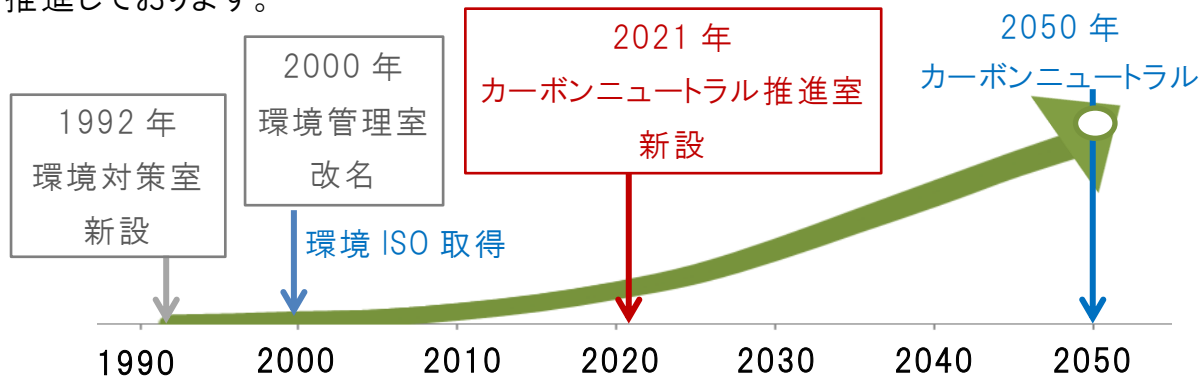
共和レザーでは、SDGs におけるマテリアリティ(重要課題)を特定して、「カーボンニュートラルの実現」「多様な人材」「社会貢献活動」を柱として、企業の持続的成長と持続可能な社会の実現に向けて取り組んでおります。



SDGs		マテリアリティ(重要課題)
 13 気候変動に具体的な対策を	気候変動に具体的対策を	【01】カーボンニュートラルの実現 ・温室効果ガス(CO2)排出削減 ・CO2 排出削減に向けた製品開発
 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	
 12 つくる責任つかう責任	つくる責任つかう責任	
 8 働きがいも経済成長も	働きがいも経済成長も	【02】多様な人材 ・男女ともに、仕事と育児の両立がしやすい環境づくりを目指し社内制度拡充 ・健康経営の取り組み、環境整備
 5 ジェンダー平等を実現しよう	ジェンダー平等を実現しよう	
 3 すべての人に健康と福祉を	すべての人に健康と福祉を	
 11 住み続けられるまちづくりを	住み続けられるまちづくりを	【03】社会貢献活動 ・地域社会への貢献 ・生物多様性(生態系)の保護、水質保全
 14 海の豊かさを守ろう	海の豊かさを守ろう	
 15 陸の豊かさも守ろう	陸の豊かさも守ろう	

## 推進、管理体制

共和レザーでは、環境管理室が環境全般の管理を行っておりますが、環境問題の中でも特に気候変動対策は重要な課題だと認識しており、2021年5月にはカーボンニュートラル推進室を新設し、活動を推進しております。



## ISO14001 認証取得

2000年に持続的な環境対応のシステムが認められ、共和レザーはISO14001の認証を全社一括で受けることができました。



ISO14001  
JAER 0179

## 環境方針

「みんなの知恵で未来に渡そうきれいな地球」をスローガンに、自動車及び住宅・住設の内外装表皮材、ファッション・生活資材用表皮材メーカーとして、人と地球に調和した企業活動を行う

### 環境方針

- (1) 環境に関する法律・規制及び当社が同意した協定事項を順守し、環境保全に貢献する
- (2) 時代の環境ニーズを先取りした商品を市場に提供する
- (3) 企業活動による環境負荷をミニマムにする
  - 1) 環境負荷物質の使用・排出の低減
  - 2) 資源の有効利用・廃棄物の低減
  - 3) CO2 排出量削減、省エネルギーの推進
- (4) 教育等を通して、全社員の環境意識を向上する
- (5) 地域との連携を密にし、地域の環境保全活動に協力する

2018年8月1日  
共和レザー株式会社  
取締役社長

花井幹雄

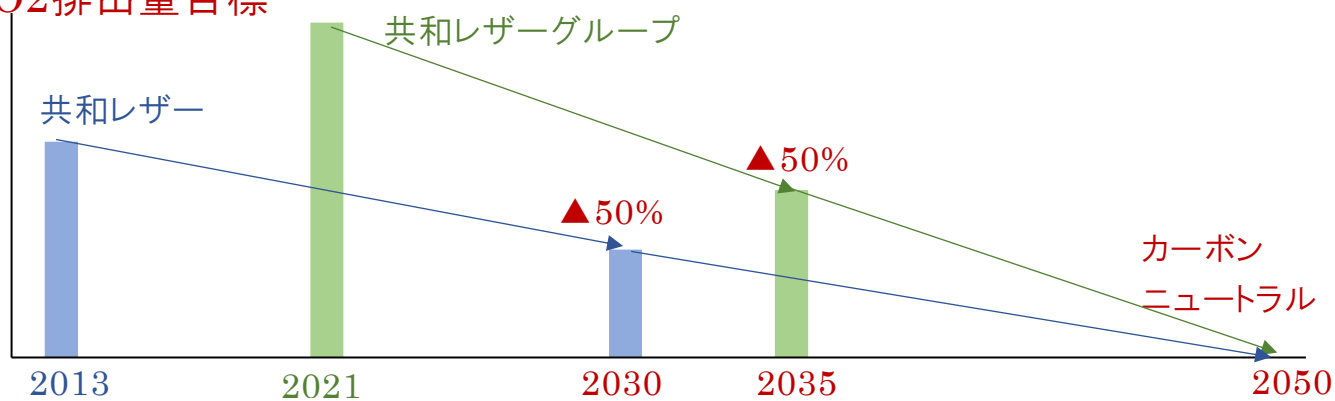
以上の方針に従い、目的・目標を定め、達成を図るとともに、定期的に見直し、継続して改善を進める

## CO2 目標と実績

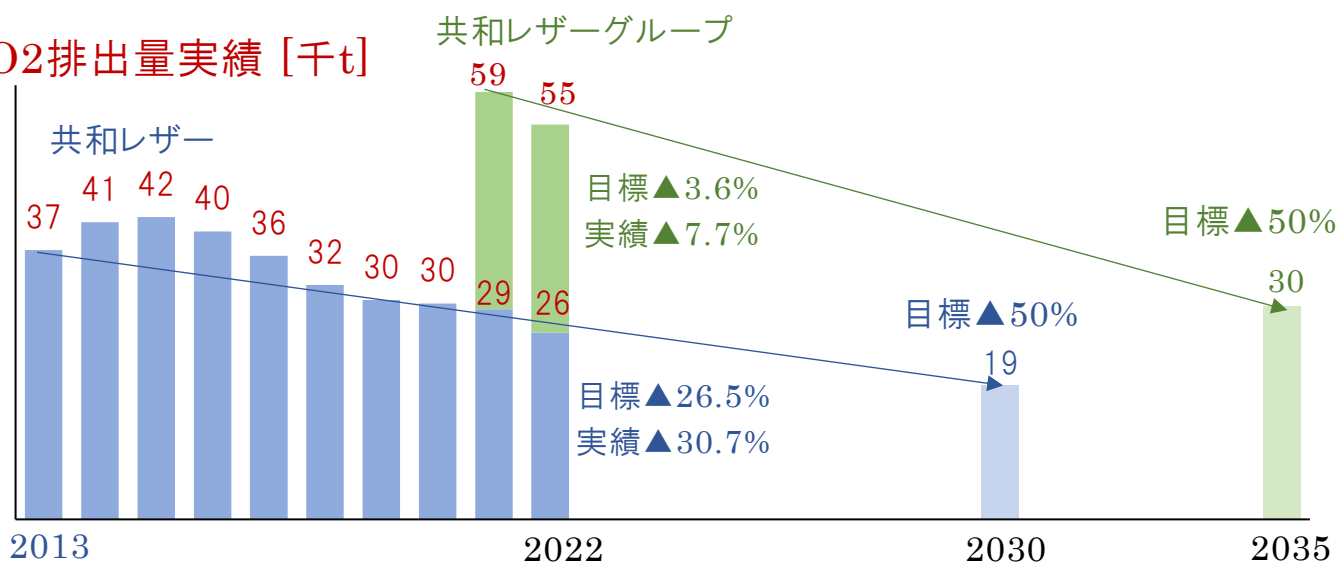
2020 年の政府の「2050 年カーボンニュートラル宣言」を受け、2021 年に共和レザーでも、2030 年▲50%(2013 年比)、2050 年カーボンニュートラルの目標を設定しました。「①再生可能エネルギーなどの導入」、「②設備投資・技術革新などの応用」、「③日常改善の推進」を CO2 排出量削減活動の軸として推進し、自社で発生する CO2 の実質ゼロを目指します。

また、共和レザーグループでは、連結子会社を含めて、CO2 排出量のグループ目標を設定しました。2035 年に▲50%(2021 年比)、2050 年カーボンニュートラルを目指します。グループで連携して、一丸となって CO2 排出量削減活動を進めます。

### CO2排出量目標



### CO2排出量実績 [千t]



### CO2 排出量 [t-CO2] (Scope1,2)

(年度)

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
共和レザー	37,235	41,085	41,771	39,790	36,437	32,391	30,337	29,826	29,040	25,787
グループ	-	-	-	-	-	-	-	-	59,101	54,575



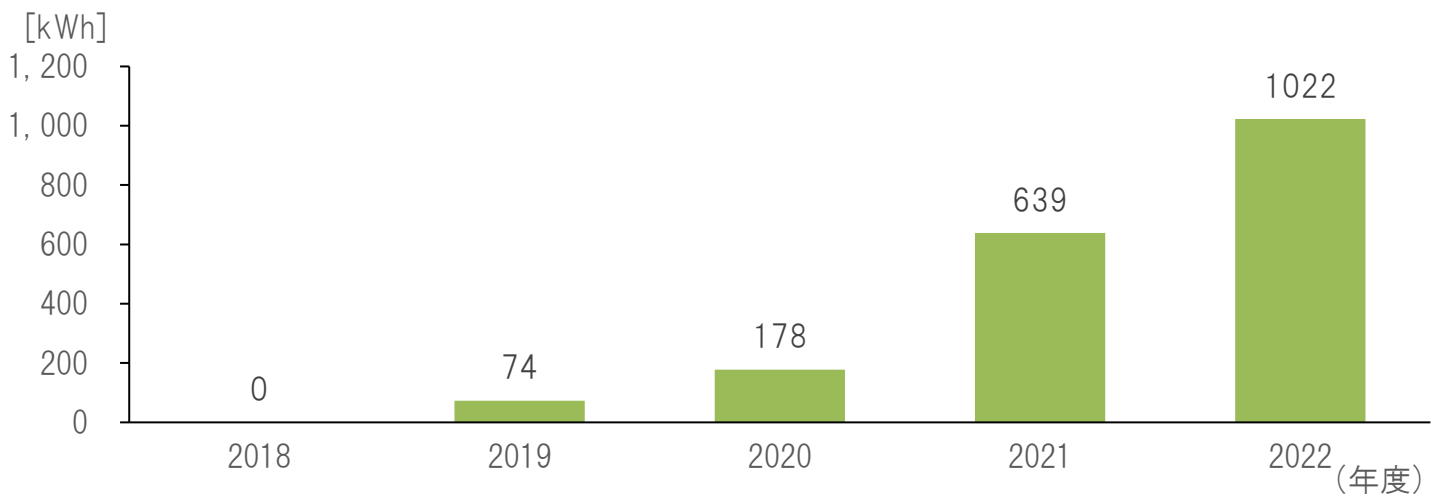
# カーボンニュートラル

## ①再生可能エネルギー

従来から、工場におけるエネルギー消費量の削減に向けた改善活動に取り組んできました。2020年度には、これまでの活動に加え、CO<sub>2</sub> 排出量の削減に向けた改善として、浅羽工場において太陽光発電による再生可能エネルギーを導入しました。これにより年間約 170 トンの CO<sub>2</sub> 削減が可能となりました。

また、2022年5月1日よりの本社・技術センターにおいて「CO<sub>2</sub> フリー電気」を導入しました。これにより本社・技術センターで使用する電力の全量が再生エネルギー100%となり、電力使用に伴うCO<sub>2</sub> 排出量は実質ゼロになりました。

### 電力 再生可能エネルギー使用量



天1工場  
90kW(2017/3～)



天2工場  
40kW(2018/3～)



浅羽工場  
305kW (2021/2～)



本社、技術センター  
中部電力ミライズ  
「CO<sub>2</sub> フリー電気」  
全量(2022/5～)

## ②設備投資・技術革新

### ■ ボイラーの燃料転換

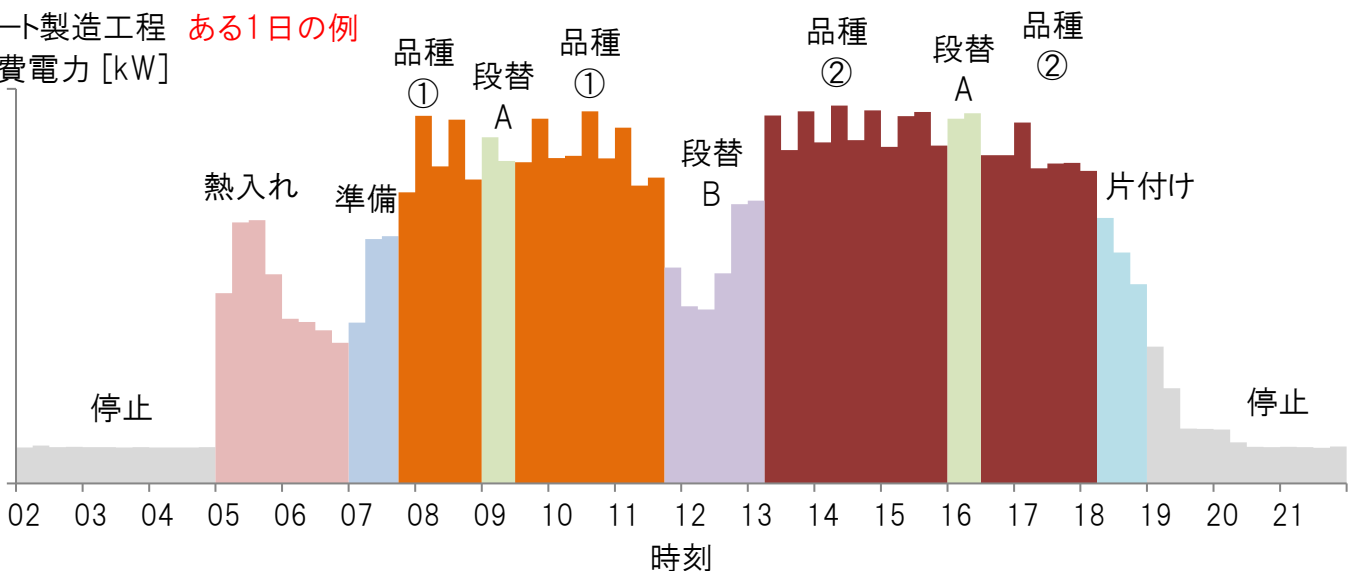
2022年に浅羽工場に新規蒸気ボイラーを導入し、A重油からLNG(液化天然ガス)へと燃料転換を進めました。LNGは大気汚染の原因となるNO<sub>x</sub>(窒素酸化物)の発生量が少ないうえ、SO<sub>x</sub>(硫黄酸化物)とばいじんが発生しない環境にやさしいエネルギーです。ボイラーの運転効率が約30%向上し、さらに稼働状況に応じて細やかに蒸気発生量を調整できるようになりました。また、LNGは燃焼時のCO<sub>2</sub>排出量も少なく、従来のボイラーと比べ年間で約40%程度の排出量削減が期待されます。



### ■ エネルギー見える化

浅羽工場では、工程毎に計測可能な電力計、燃料流量計の設置が完了しています。計測値と日報の時刻を紐づけすることで、どの作業で、どれだけエネルギーを消費しているのか「見える化」ができました。エネルギーの無駄を見つけるのに役立ち、シート化工程の熱入れ時間短縮による省エネに活用することができました。

シート製造工程 ある1日の例  
消費電力 [kW]

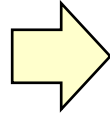




## ③ 日常改善・省エネ

### ■ モーターの更新(インバータ制御化)

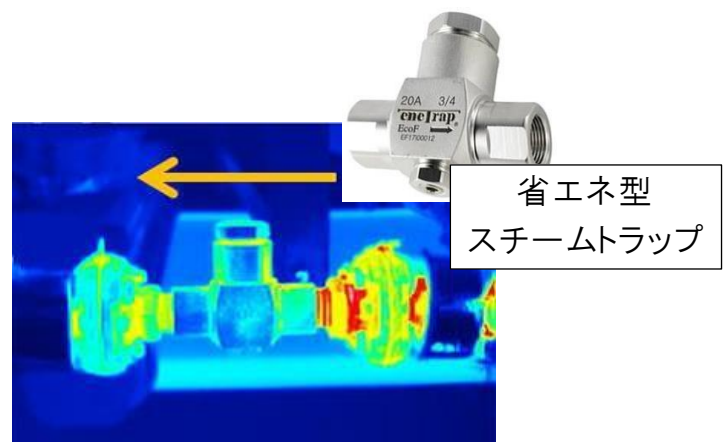
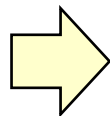
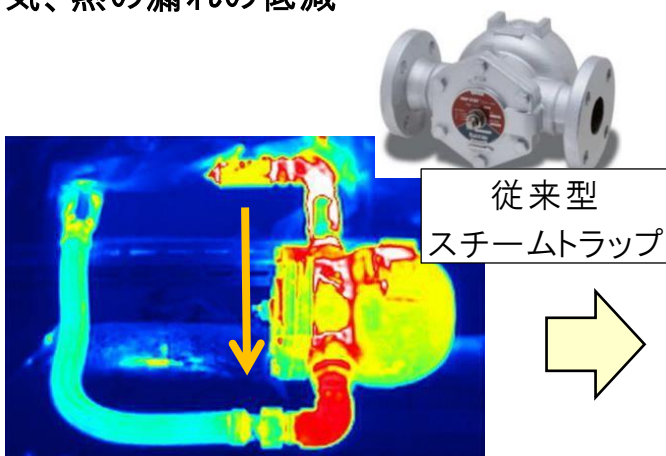
消費電力▲20～50%



- ・さまざまな設備で、老朽化して効率の悪いモーターから優先して更新
- ・出力に余裕があったモーターは、小型のものに変えて効率 UP
- ・すでにインバータ制御のものも、制御の設定を最適化することで、費用ゼロで省エネ

### ■ 蒸気、熱の漏れの低減

蒸気の使用量▲15～25%



- ・スチームトラップ(蒸気は漏らさず、冷めた水だけ出す弁)を漏れが少ないものへ更新
- ・サーモグラフィで熱の漏れを可視化して確認
- ・設備全体からサーモグラフィで熱の漏れがある箇所を探し、断熱材を追加(日常改善)

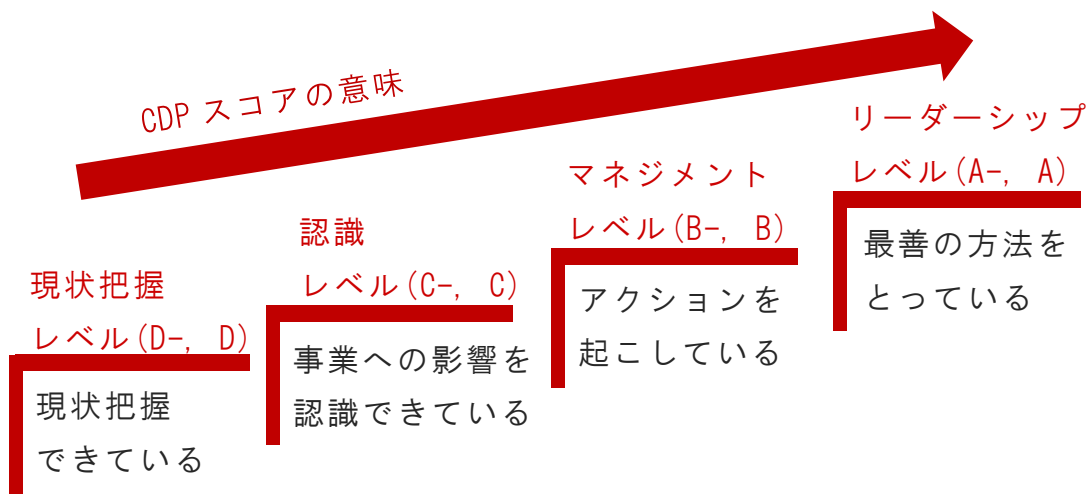


## CDP 評価

共和レザーは、トヨタ自動車のサプライチェーンプログラムを通じて CDP(環境に関する質問書で企業を評価する国際団体)へ情報開示を行い、ランク評価を受けております。



2022 年には、気候変動が B、サプライヤーエンゲージメントが A-、水セキュリティが B 評価で、気候変動関連については、プラスチック製造業の平均を上回る評価を得られました。



## 非財務情報の開示

共和レザー2022年度の有価証券報告書から、「サステナビリティ情報開示」の項目で、TCFDに準ずる形での非財務情報の開示を始めました。以下で、同様の内容を開示します。

### (1)ガバナンス

当企業グループのサステナビリティを含む会社経営に係る重要事項についての方針・計画の審議は、必要に応じて設ける各機能会議を経て経営会議で行っております。

当社は、カーボンニュートラル推進室を新設(2021年5月)し、2050年CO2排出量実質ゼロに向けた計画策定、推進及び提案を行っております。

また、環境マネジメントシステム、法規制に基づく環境管理については、環境管理室が主管となって実績のフォロー・評価を行い、6ヶ月に1回開催する「環境管理委員会」(代表取締役社長が委員長、環境管理室担当役員が議長)で報告並びに審議を行っております。「環境管理委員会」の議事・審議内容は、経営会議にて代表取締役社長が報告します。

### (2)戦略

当社は、気候変動によるリスク・機会と影響度の検討のため、シナリオ分析の実施を進めております。気候変動に関する政府間パネル(IPCC)や、国際エネルギー機関(IEA)の情報を参照して、2°C未満シナリオと4°Cシナリオを設定しています。今後もシナリオ分析を定期的を実施して、リスク・機会への対応を進めてまいります。

#### 気候変動シナリオ分析

区分		内容	影響度
移行リスク (2°C未満シナリオ)	政策・規制	・炭素税の導入によるコスト増加	中
	技術	・エネルギー転換や材料の低炭素化によるコスト増加	大
	市場	・環境対応の要求に答えられず失注	中
	評判	・環境対応の遅れで、顧客や投資家からの信頼が低下	中
物理リスク (4°Cシナリオ)	急性	・自然災害による操業停止、原材料の供給停止	小
	慢性	・暑熱対策コスト増加や、感染症増加による稼働率低下	小
機会	資源の効率性	・リサイクル増加による新品材料の調達コスト減少	中
	エネルギー源	・自社太陽光発電増加によるエネルギー調達コスト減少	中
	製品	・環境対応の顧客要求に応えることによる受注増加	中
	市場	・車両の使われ方の変化(CASE)による新市場の開拓	中

## (3)リスク管理

当社は環境方針に基づき環境関連のリスクを特定し、その低減に向けた目標を定めて各部門が改善を推進します。その実績についてはマネジメントシステム(ISO14001)を活用して各部門で評価し、各環境関連分科会で報告・議論した後に、全社の環境管理委員会で報告・審議します。さらに発見された重大なリスクについては、6ヶ月に1回開催しグループ各社の担当役員が出席する危機管理委員会において報告、諸施策の審議決定を行っております

## (4)指標と目標

当社では政府方針を受け、カーボンニュートラルに向けた取り組みとして自社で発生するCO2の排出量(Scope1:燃料、Scope2:電力)を把握し「日常改善の推進」、「技術革新などの応用」、「再生可能エネルギーなどの導入」を軸とし長期目標(2013年度比)を設定しています。2025年に▲30%、2030年に▲50%、2050年にはCO2排出量ゼロを目指します。具体的には重油から液化天然ガス(LNG)への燃料転換、太陽光発電の導入を実施しております。また2022年5月1日より浜松地区の本社・技術センターにおいて「CO2フリー電気」を導入いたしました。

当社は資源循環型の企業を目指し、CO2排出量の少ない環境に優しい商品開発を材料面と設備面、および3R(Reduce:廃棄物の削減、Reuse:再利用、Recycle:再資源化)の観点で進めてまいります。

なお、公表している目標値は共和レザー単独の値であり、また実績値は概算値であるため、翌年度以降で、当企業グループ全体での目標値・実績値への見直しを予定しております。

### 指標と目標

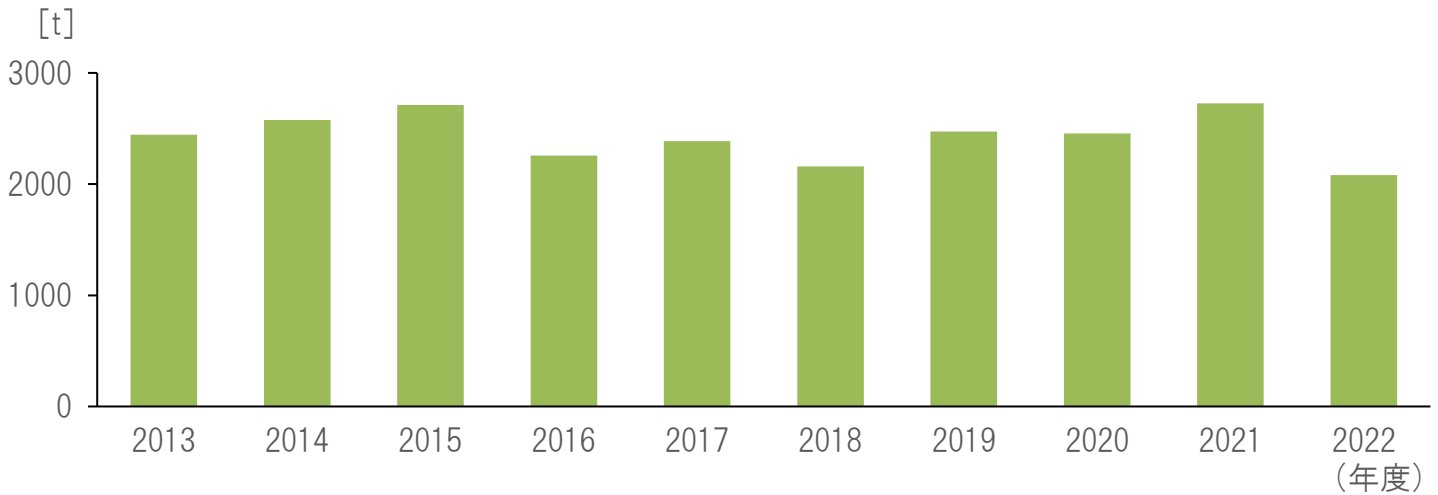
	2013年度	2022年度	2025年度	2030年度	2050年度
共和レザー(単体) Scope1,2 CO2 排出量	基準 100%	実績(概算) ▲32%	目標 ▲30%	目標 ▲50%	目標 ▲100%

※CO2 指標と目標の詳細は、「CO2 目標と実績」ページを参照ください

## 廃棄物量

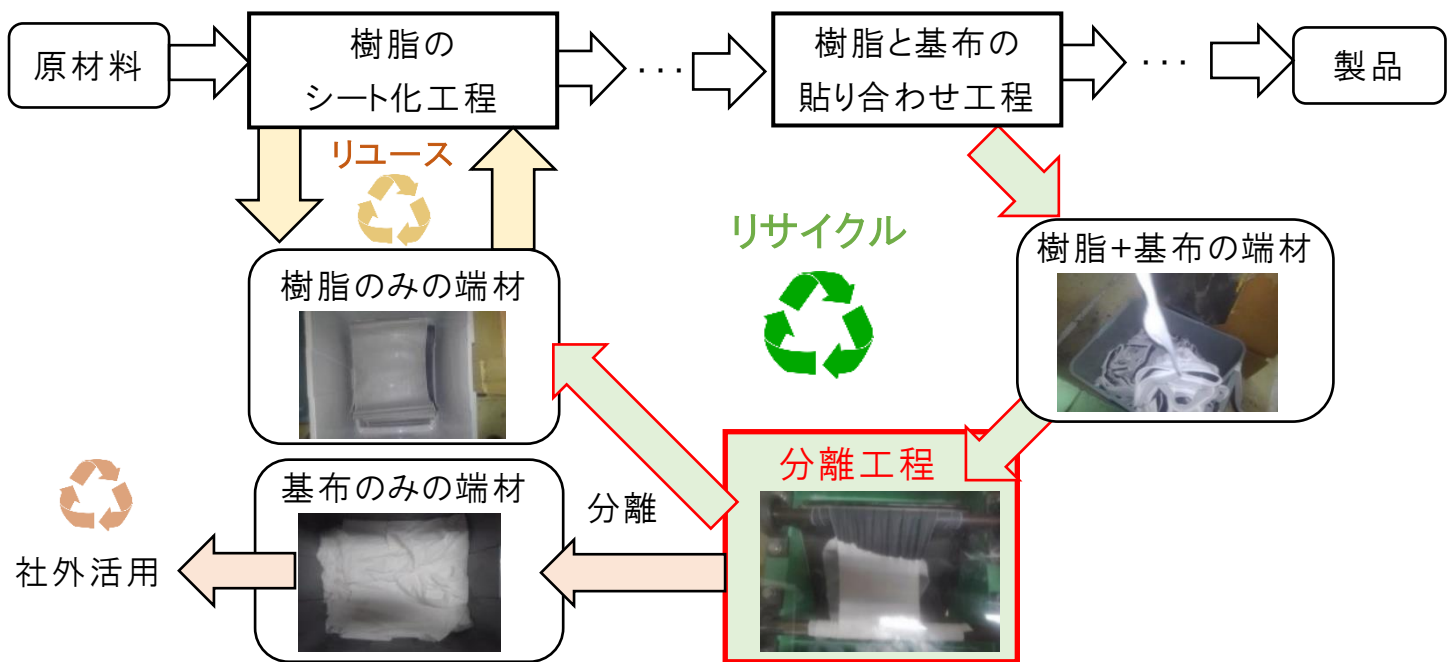
共和レザーでは、限りある資源を有効活用し、環境負荷を低減するため、産業廃棄物の削減活動を行っております。

### 廃棄物量



## 樹脂のリサイクル

共和レザーでは、製造工程内で発生した樹脂の端材を同じ工程でリユースするだけでなく、樹脂と基布が貼り合わさった端材を分離し、再び原材料として使用可能な状態へのリサイクルも行っております。

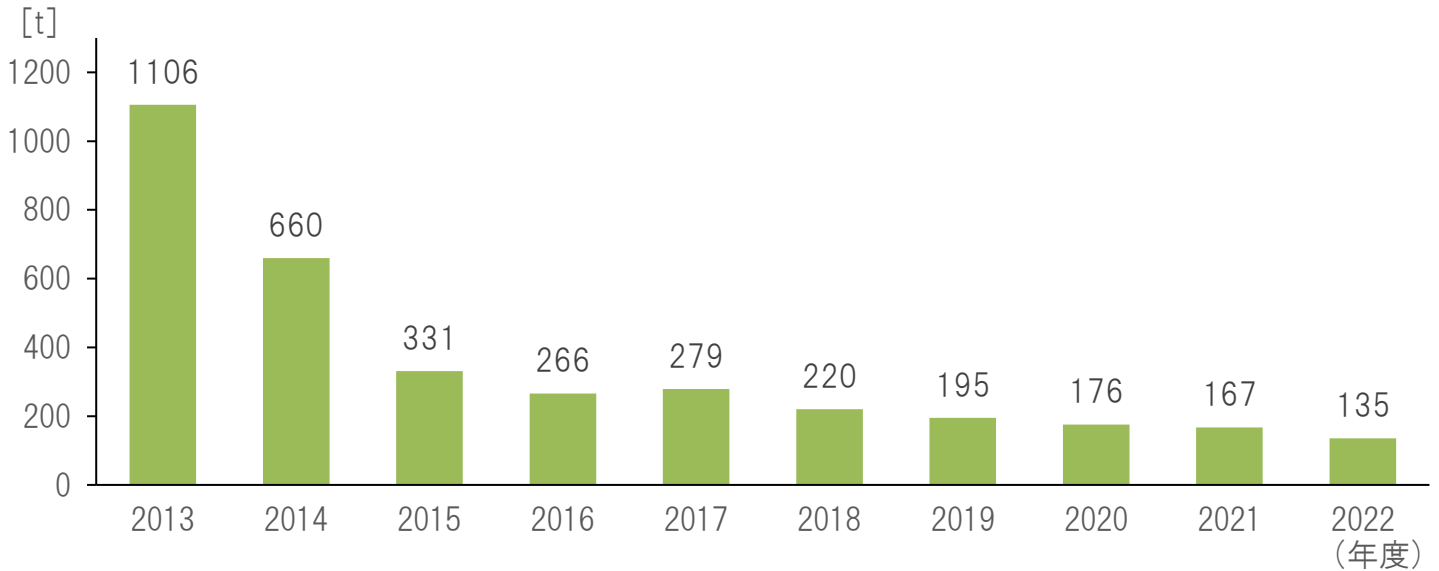




## PRTR 対象物質

共和レザーでは、シックハウス症候群などの原因となるトルエンなどの有機溶剤を別の物質へ置き換えて、使用量低減を進めています。また、排ガス中の有機溶剤を燃料として再利用する設備を導入して、環境負荷物質の有機溶剤が大気中へ排出される量を抑えています。

### PRTR対象物質の排出量・移動量



### PRTR 対象物質の排出量・移動量 [t]

(年度)

届出対象物質	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
アンチモン及びその化合物	7.4	7.5	7.2	6.8	7.0	7.8	8.3	8.2	9.0	8.2
トルエン	230.3	155.4	93.7	76.6	67.7	46.8	35.8	27.5	22.2	19.3
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	39.5	34.8	32.6	16.8	9.8	1.5	0.1	-	-	-
メチルナフタレン	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
エチルベンゼン	2.4	1.4	-	-	-	-	-	-	-	-
キシレン	2.8	1.6	-	-	-	-	-	-	-	-
N, N-ジメチルホルムアミド	817.7	453.7	192.0	162.5	189.8	160.8	147.6	136.1	131.1	103.0
トリエチルアミン	2.8	2.5	2.9	2.9	2.7	2.9	3.3	3.7	4.7	4.6
ノルマル-ヘキサン	2.6	2.9	2.3	-	1.3	-	-	-	-	-
メチルビス(4,1-フェニル)-ジイソシアネート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.3
合計	1,105.6	660.0	330.9	265.9	278.5	219.9	195.2	175.6	167.2	135.4
届出対象物質数	9	9	7	6	7	6	6	5	5	6

## 環境対応製品

### リサイクル PET 使用製品

共和レザーでは、製造時の燃料や電力によるCO2だけでなく、原材料由来のCO2を削減するために、PET ボトル由来のリサイクル基布を使用した合成皮革を開発しています。



### バイオ材料配合製品

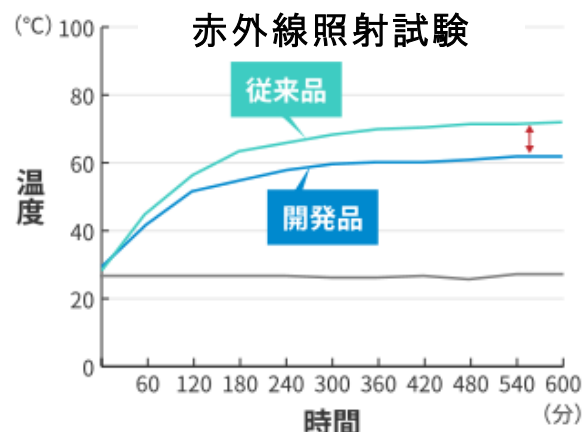
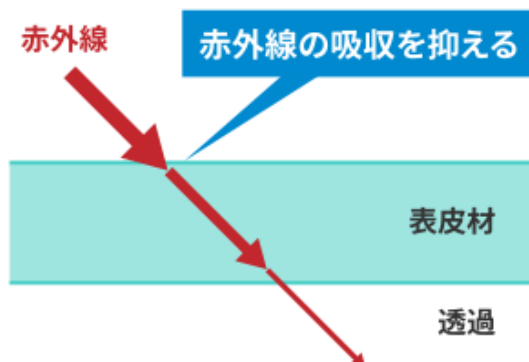
共和ライフテクノではバイオマス材料を配合したバイオヴィーガンレザー「LeNa」を開発しています。間伐された竹を使用した BambLena、廃棄される貝殻を使用した SheLena などのバリエーションがあります。



<https://www.kyowalt.co.jp/lena/>

### 昇温抑制機能

共和レザーでは、環境材料への置き換えだけでなく、新しい機能を持った製品を開発しています。昇温抑制機能を持った自動車表皮材は、車内のエアコンの省エネになるため、自動車使用時も含めた製品ライフサイクル全体でのCO2 排出削減に貢献します。



## エシカルレザー Sobagni

共和レザーでは、「エシカルレザー Sobagni(ソバニ)」ブランドで、雑貨類の販売を行っております。

### エシカルレザー

ETHICAL  
(倫理的)



イタリア語の sogni(たくさんの夢)と、  
日本語の「そばに」をかけあわせた造語

<https://sobagni.jp/>

地球環境や地域社会と共生し、人にも動物にも、地球にも優しい合成皮革「エシカルレザー」であり続けるために、Sobagni の取り組みをご紹介します。



動物の革を身に着けることは動物虐待なのではないか、という思想から世界的に動物素材を使わない「アニマルフリー」の考え方が支持されています。合成皮革は「アニマルフリー」な素材です。そのうえ、Sobagni のエシカルレザーは、環境負荷物質や環境ホルモンに該当する化学物質は使用せず、人にも動物にも環境にも優しい素材です。



圧倒的な軽さ(※1)、自動車基準の高い耐久性、10 年以上ずっと変わらない質感と品質(※2)。素材の特性を活かした使いやすく、飽きのこないデザイン。本当のサステナブルは耐久性。使い捨てではなく、お気に入りのアイテムを長くご愛用いただくことこそ、サステナブルであると考えています。



「私たちの素材や活動によって、社会に役立つことをしたい」という想いから、Sobagni では社会貢献活動を積極的に行っています。

- ・地域企業やデザイナーとのタイアップ。
- ・デザイン系大学や地域学校の支援(産学協同プロジェクト)
- ・授産施設とのコラボ

※1: 同じ厚みのリアルレザーの 2/3

※2: 素材(エシカルレザー)は 10 年の耐久性がございますが、縫製や金具を含めた商品そのものの耐久性をお約束するものではありません。



## 静岡茶から作った Chakara



静岡茶から作った  
ヴィーガンレザー



### コンセプト

- ・自社技術を活用し、地域とともに循環型経済(サーキュラーエコノミー)を構築する
- ・以下を満たす原材料を、合成皮革へ添加

- ・「原材料は可食ではないもの」
- ・「粉末化するときのエネルギーが少ないもの」
- ・「国内で産地が明確なもの」

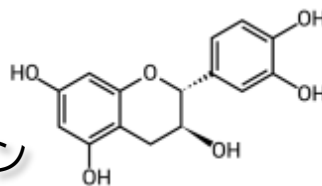


静岡県内の製茶メーカーで  
製造時に発生する茶葉の  
非可食部分を使用

## Chakara を使用した Sobagni

- ・循環型経済(サーキュラーエコノミー)へ貢献
- ・しなやかで高級感のある表情と、ふわりと香るお茶の香り
- ・茶葉に含まれるカテキンによる抗菌・防臭機能

カテキン



Chakara 特設サイト

<https://sobagni.jp/chakara/>





## 地域の清掃活動

### ■ ウェルカメクリーン作戦

2022/5/8(日)浜松市の砂浜(ウミガメの産卵地)の清掃活動へ、  
当社から 11 名が参加しました。



### ■ 佐鳴湖クリーン作戦

2022/8/7(日)浜松市にある佐鳴湖の清掃活動へ、  
当社から 34 名が参加しました。





## 磐田市 災害復旧への協力

2022年台風15号により発生した崩土の土砂置場として、福田社有地を提供しました。早期の復旧協力に対し、磐田市より感謝状をいただきました。なお、残土は今後、津波対策の防潮堤に使用される計画です。



## 家庭の不用品を海外へ寄付

2022/9/15、「もったいないボランティアプロジェクト」を通して、回収した家庭の不用品(165kg)を、海外へ寄付しました。



## 地元小学校ワークショップ

浜松市内の小学校で、エシカルレザー Sobagni を使った小物のワークショップを開催しました。読み書きの授業だけでは得られない体験を提供して、Sobagni を知ってもらうのと共に、地域との繋がりを深めています。

Sobagni ブログ「小学校でのワークショップ」

<https://sobagni.jp/ethical-blog/community-school3/>

